

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 18 号 平成 19 年 5 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

Basic Life Support

循環器科部長 谷 智満



この度、4月より旭労災病院に赴任してきた谷です。循環器科は4月より谷、後藤、恒川の3人体制となりました。3人が一致団結して、病診連携を通じ地域の心疾患の患者様へ少しでも良い医療が出来たらと考えております。今回は、医療従事者が誰でも知っている必要がある一次救命処置の話題をお伝えします。

心肺停止傷病者の社会復帰には可能な限り早期に正しく一次救命処置を行うことが重要です。2005年にILCORのCoSTRが発表され、これをもとに、日本版ガイドラインが策定されました。

今回のガイドライン最強調点は、絶え間ない胸骨圧迫です。その他に、換気は1秒で行うこと、一人法での胸骨圧迫と換気の比率は30:2で、除細動後直ちにCPR再開などが推奨されました。

今回のガイドラインの手順を簡単に紹介します。

1. 状況・安全確認

倒れている傷病者を発見した際、安全に近づくことが可能か、救出すべき状況にあるかの判断をします。

2. 意識の確認

呼びかけて意識の確認をします。反応がなければ傷病者の肩を叩き意識を確認します。

3. 応援要請

意識がなければ、周囲の人に119番通報とAEDを依頼します。

4. 気道確保

頸髄損傷の疑いがなければ、頭部後屈顎先挙上法を選択します。

5. 呼吸と脈の確認

気道確保後、10秒以内で、脈を触れ、胸郭の動きを「見て」、呼吸音を「聞いて」、呼気を「感じて」呼吸の確認をします。

6. 人工呼吸

心停止の場合は、人工呼吸を2回試みます。人工呼吸は胸郭が軽く挙上する程度約1秒で吹き込みます。

7. 胸骨圧迫

圧迫の位置は乳頭と乳頭を結ぶ線の胸骨上とします。1分間に100回のペースで、胸骨が4~5cm沈むように垂直に圧迫を行います。胸骨圧迫を繰り返し行う際は胸骨への圧迫は完全に解除します。

8. 胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせ

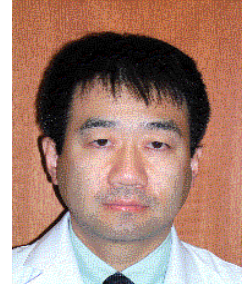
30回の胸骨圧迫と2回の人工呼吸の組み合わせを行います。これは中断の少ない胸骨圧迫では、血行動態および生存率の改善が認められたためです。5サイクル(2分)おきに胸骨圧迫の担当を5秒以内に交代することが望ましいとされています。

9. AED

成人ではAEDが到着次第用います。適応があれば、除細動を1回行い、蘇生の中断を最小限にするように、除細動施行後は直ちに胸骨圧迫を行います。AEDの電極パッドの装着位置は、右上前胸部(鎖骨下)と左下側胸部(左乳頭部外側下方)とします。

当院のNST活動の現状について

第三外科部長
高野 学



医療報酬改定による栄養管理実施加算の新設に伴い、2005年にNST（栄養サポートチーム）が結成され稼働しています。診療報酬上栄養管理実施が必要とされるようになった背景には中心静脈栄養によるカテーテル敗血症などの致死的合併症の予防という医療安全管理上の側面と、経腸栄養法に比べて膨大な医療費が必要とされる中心静脈栄養乱用の制御という経済面が挙げられます。特に尾鷲総合病院におけるNSTの活動がNHKで報道されたことにより、原疾患の治療とともに適切な栄養療法を実施することにより病状回復が促進されること、一般に行なわれているクリニカルパスを適応させにくい高齢化対策ツールとしての有用性、病院内の栄養管理のみではなく地域医療におけるNSTの存在価値の向上、DPCなどの包括医療対策としての医療費削減のための意義、在院期間の短縮、栄養士や薬剤師を中心とするコメディカルスタッフのチーム医療への参加などが促される等といったことが広く知られるようになり各病院のNSTの結成の機運が高まりました。現在当院のNSTチームは医師、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師、作業療法士など18名で構成されています。現在の主な活動は院内教育、週一回の回診、コンサルテーションに対する助言などをおこなっています。結成から院内での活動を中心としてきましたが急性期治療が一段落し、在宅での訪問診療や訪問看護が必要となる方の中でも栄養管理を引き続き必要とする方は少なくありません。導入後の日時が浅いこともあり、通院患者様や退院後の患者様を対象としては十分な活動を行なえないのが現状です。しかしながら在宅診療を続行する方などの治療を、引き続きお願いする機会が今後増加していくものと考えられます。今年度はNST稼働施設認定を申請する予定であり診療所の先生方のご指導、あるいは栄養管理上のご意見をお待ちしております。